



遠野市【岩手県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：26,899人 ■市域面積：825.97km²
■担当課：遠野市教育委員会文化課（平成31年3月現在）



遠野市は柳田國男の『遠野物語』によって「民話のふるさと」や「民俗学の聖地」として、全国的に知られてきた。また「遠野遺産認定制度」を平成19年度からスタートし全国的にもいち早く市民遺産制度を取り入れて、文化的なまちづくりに取り組んできた。こうした流れを継承し、「『遠野物語』を紡ぎ続ける遠野の未来創造」を大きなテーマとして、まちづくりを進めていく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

『遠野物語』、民俗学と民話、南部曲り家、
城下町と街道、ふるさと

課題

- ・膨大な文化資産の保存・整備・活用
- ・文化財の継承の担い手不足
- ・文化財の公開活用と観光振興の更なる連携

保存活用方針

- ・地道な調査と整理の計画的継続
- ・市民協働による文化財の保存活用
- ・文化的景観の視点による総合的な保存活用
- ・多様な対象への情報発信

保存活用のための取り組み

地道な文化資産の調査と整理の 計画的継続の取り組み

市史編さん事業と連携し、これまで不足していた重要な文化資産の調査を実施。博物館等で収蔵している膨大な資料の整理と保管のため、データベースの構築作業の継続と、安定的で一括管理ができる収蔵施設の整備を検討。遠野遺産認定制度による未指定文化財の継続的な調査



市民協働による文化財の保存と 活用の取り組み

代表的な南部曲り家である重要文化財千葉家住宅の活用を検討する「重文千葉家の活用を考える会」及び、重要文化的景観土淵山口集落の住民組織「おらほのながめづくりの会」、各遠野遺産推薦団体、各郷土芸能保存会等との連携と必要な自立支援。



文化的景観の視点による総合的 な保存活用の取り組み

遠野全体が文化的景観であるという考え方に基づき、すでに重要文化的景観選定地となっている、荒川高原牧場、土淵山口集落の整備を進める。重要文化財千葉家周辺も追加選定に向けた準備を実施する。遠野遺産認定制度による市独自の文化的景観保護を継続する。

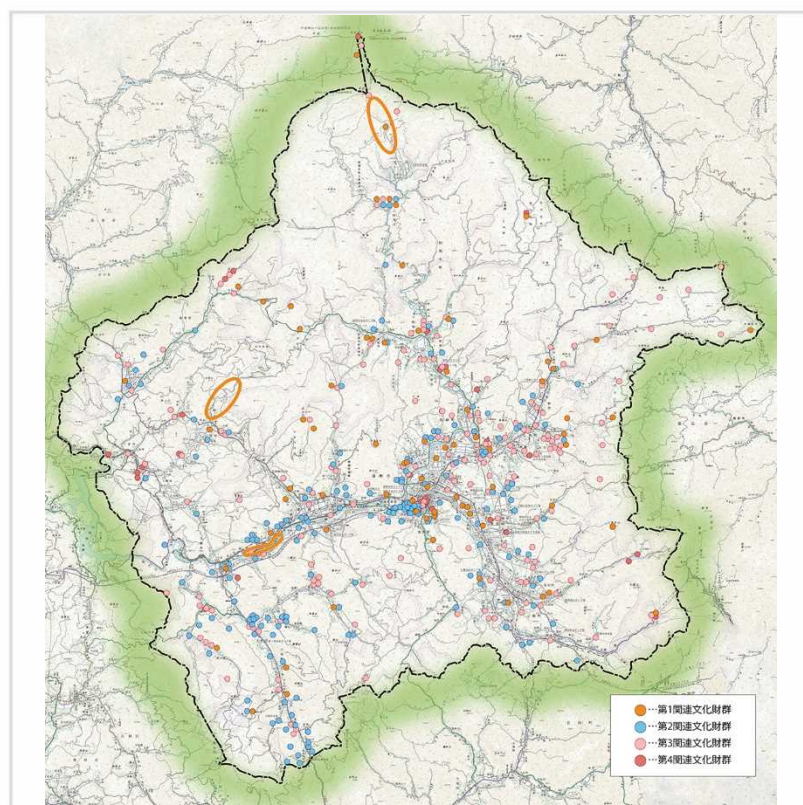


多様な対象への文化資産の情報 発信の取り組み

これまで遠野に一定数訪れていた欧米や、近年増加している台湾などの外国人に向けて、従来の紙媒体やHPによる情報発信の継続とサイン整備、すでに博物館に導入している多言語ガイド端末の活用を推進。文化財の活用整備には、VRやARの導入も検討する。



関連文化財群



明治43年発刊の『遠野物語』は遠野に語り継がれた不思議な事象をまとめたもので、遠野市のまちづくりに大きな影響を与えてきた。これをキーワードとして4つの関連文化財群を設定した。『遠野物語』の背景となる原始・古代の文化財群、中世・近世の文化財群、『遠野物語』誕生の頃の文化財群、その後『遠野物語』を継承しながら近代化した時代の文化財群で、それぞれ『遠野物語』の文を名称に用いた。

ストーリー

- ①「大昔はすべて一円の湖水なり」
原点となる想像的世界を生み出した自然と原始・古代の文化
- ②「山奥には珍しき繁華の地なり」
胎動となる骨格社会を形成した中近世の文化
- ③「馬千匹、人千人の賑わしさなり」
誕生、地域の自負を育んだ明治期を中心とする文化
- ④「平地人を戦慄せしめよ」
民俗的世界の継承と新たな文化が融合した近現代の文化

策定後の成果（見込まれる効果）

①市民の地域文化学習の促進

本構想を策定するにあたり、遠野市内の膨大な文化資産をまとめ、4つの関連文化財群、7つの歴史文化保存活用区域に整理した。本構想は市内の文化資産を総覧できる資料としても、利用することができ、地域を知る教材として、生涯学習や学校教育の場で活用されることが見込まれる。



②文化を活かしたまちづくりの推進

本構想の策定により、市内の文化資産の保存活用方針を明文化して示すことができたため、行政や関連団体と連携を強化しやすくなり、ソフト・ハード両面から一体的に文化を活かしたまちづくりに取り組み、遠野市全体の文化的景観の保存、整備、活用が推進されることが見込まれる。



③文化観光の更なる振興

今回設定した、関連文化財群、保存活用区域を活用して、ストーリーのある多彩な観光モデルコースを設定することができ、多様化する観光ニーズに対応することが可能となった。また、市内各文化資産のネットワーク的な連携によるイベント実施などによる観光利用も見込まれる。

